
地母神の訪れし山

天月黎璽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地母神の訪れし山

【Nコード】

N7149K

【作者名】

天月黎璽

【あらすじ】

ジョウタンキョヒョウキユウ
丈短裾氷玖大学教授 暁ユギト氏による「地母山」についてのレポート

閲覧可

(前書き)

暁レポート…地母山について 2010・04・04 (SUN)
(ZN)

日本のある場所に、「地母山」という山があるらしい。「地母神が訪れ、豊作と多産をもたらす」という伝説が由来だそうだ。

そこはこの国では数少ない原生林の森林地帯であり、今なお、太古の生命が息づいているという。原生林といえば、まさしく貴重な「本当の自然」であり、世界遺産として認定を受ける程のものである。しかし、公に認知されてはいないのは、明確であろう。実は、地母山という名は「隠された名」であり、しかも、その周辺に住む人ですら、その名を知らないという。「ある血筋の者だけが知っている」というのが、有力な説だ。

その者達は、ある決まった時期に地母山へ赴き、そこで何かオカルティックなことをしているという。どうやら、先に述べた「地母神」に関する儀式らしい。山頂には、その儀式のための祭壇があるといる。そして、その儀式は「血の生贄」が必要とされるものであるそうだ。それがどんなものであるのかは分からない。一滴の血の雫なのか、「それだけでは済まない」ことなのか？

さらに、こんな話もある。「地母山の森は、歩み、動く森」というものだ。これは、「血筋の者でない者が地母山の森へ踏み込むと戻ってくることは無い」という話からも分かるように、非常に迷いやすい森であることから来ているようだ。あるいは、本当に森が、木が歩き、動くのかもしれないが：

こういったことにより、地母山は公にされることが無いそうだ。また、公に晒そうという者を「血筋の者」達は許さないそうであり、「排除」するそうだ。それがどういったものなのかは、言うまでも無い。地母神は貢物を受け入れると、己を崇拜する者達へ豊作と多産を与えるのだろう。

一定の周期で現れる、「まるで生きているかの様な雲の塊」、その下に地母山はある、と言われているそうだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7149k/>

地母神の訪れし山

2010年10月17日03時31分発行